

# 地ひびき



315号

# 田水張る

丸岡 稔

「田水張る 常念岳の朝化粧」これは6年前に亡くなった、私のすぐ上の兄の句です。毎年、4月末から5月にかけての大型連休は、兄弟4人が末弟の私の家に集まって、薫風の中をスケッチで走り廻っていました。姉妹たちは又、観光組として同行し、夫々の楽しみ方をしていたのですが、毎年必ず訪れるのは、信州安曇野でした。丁度この季節は田植えが始まる頃で、一面に水が張られた田圃に写るアルプスの山々の美しさは、息をのむ程で、その中でも常念岳は極立っていました。二人の兄と妹は亡くなってしまいましたが、

一人の兄と姉と私は、今年も安曇野を訪ねることが出来ました。年月は変わっても、白雪を頂くアルプスの山脈は昔と変わらず、<sup>いのち</sup>生命の奮い立つ思いも変わりません。昨年暮に軽い脳梗塞で入院してから気が弱っていた姉も、この風景の中で甦ったように見えました。

話は変わりますが、一昨年、越後一の宮として有名な弥彦神社のある弥彦村と「弥彦の丘美術館」が主催で、私の個展を開いてもらいました。日頃描いている風景画を並べたのですが、一点だけは「神域の道」と題して、神社の景色を描きました。この作品を宮司さんが大そう気に入って下さったので、記念に奉納させて頂きました。

「奉納して下さいる絵描きさんは何人も居られるのですが、弥彦を描いた絵は初めてです」と言われ少し驚きました。もし弥彦神社を詣

でる機会がありましたら、社務所から本殿に通ずる広い長い廊下の壁面に、他の方の作品と一緒に掛けられているのでご覧になって下さい。私以外はみんな有名な方ばかりです。

それから間もなく、今度は「弥彦」をテーマにした作品展を言われ、今年の7月8日～8月20日まで、同じ美術館で「わが心の弥彦」と題して個展を開催することになっています。私のように、公募展や、美術団体とは殆ど無縁なところで描いているアマチュア画家が、誰でもあこがれている、小さいけれど素晴らしい美術館で展覧会を開いてもらえるのは異例のことです、真に有りがたく思っています。テーマをもらってから約2年間、四季折々の弥彦の姿を追って、少しでも時間が出来ると周辺取材に走り廻っていますが、田水張る今の季節が最も魅力的です。土曜、日曜となると夜明け前に家を出て、スケッチポイントを探します。

広い越後平野一杯に水が張り、634m（スカイツリーと同じ）の弥彦山とそれに連なる雪割草で有名な角田山と良寛縁りの国上山が、まるで湖に浮ぶ島のように水面に影を落しています。

こうして向き合っていますと、この豊かな稔りは神様がもたらして下さっているのだと思えるので不思議です。何年前か前、ある首相が「日本は神の国だ」と発言し問題になりましたが、太古の日本人が、自然のあらゆるものに畏敬の念を持って接していたことがよく分り、私も「日本は神の国だ」と素直に思えたのです。ここ数日で田水の色がうす緑に変わって来ています。